



三菱 (業務用) ロスナイ

〈天井カセット形スタンダードタイプ〉

形名 **〈100V〉**
LGH-N15CS3, LGH-N35CS3
LGH-N25CS3, LGH-N50CS3

形名 **〈単相200V〉**
LGH-N15CS3D, LGH-N35CS3D
LGH-N25CS3D, LGH-N50CS3D

据付工事説明書

販売店・工事店様用

据付工事を始める前に、この据付工事説明書をよくお読みください。

据付工事は、必ず専門の工事店にて実施してください。間違った工事は、故障や事故の原因になります。お客様ご自身では据付けないでください。(安全や機能の確保ができません)

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。据付工事が終わりましたらこの説明書とともに、お客様に必ずお渡しください。別冊の取扱説明書に従って、正しい使いかたをご説明ください。

■この製品には別売のコントロールスイッチ他、システム部材が必要です。カタログ等により別途ご用意ください。

もくじ	ページ
据付けの前に	
安全のために必ず守ること	1
標準据付例	1
外形寸法図と各部のなまえ	2
据付工事	
据付方法	2
電気工事	2~3
機能設定	3
据付工事後の確認	3
試運転	
試運転	4
インテリアパネルの取付け	4
お客様への説明	4

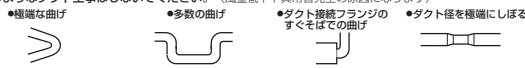
安全のために必ず守ること つづき

お願い

- 霧・もや・高湿度な空気を吸い込むと、フィルター、ロスナイエレメントから水滴が垂れ、機外に水が漏れることがあります。このような場合は、運転モードの切換えをしてください。(高湿度空気を吸い込む場合は、換気モードをロスナイ換気運転してください。濃霧や強風などで雨水が浸入するおそれがある場合は、運転を停止してください)
- 温水プール、浴室、きのこ栽培室、岩盤浴等の高温多湿(30℃以上、相対湿度80%以上の時)になる地域や霧の多発地域*で使用する場合、エアフィルターやロスナイエレメント内部に結露が生じてドレンが発生することがあります。このような条件下においては業務用ロスナイは使用できませんので、前型ロスナイをご使用ください。

都道府県名	地域名
北海道	稚内、北見枝幸、釧路、雄武、紋別、網走、青森、江差、苫小牧、室蘭、浦河、帯広、根室
青森	八戸
岩手	宮古
宮城	石巻
福島	小名浜
栃木	奥日光
千葉	銚子、船山
静岡	石廊崎、御前崎
長野	軽井沢
高知	室戸岬
長崎	平戸、雲仙岳
熊本	阿蘇山

- 建物内が負圧になる設置環境では、運転停止時や間欠運転時に霧・もや・高湿度空気が室内に侵入することがありますので、電動ダンパーを併用してください。寒冷地・外風の強い場所や建物内が負圧になる設置環境の場合は、運転停止時に室内外の圧力差や外風により、冷気・外風等が侵入することがあります。侵入防止策としてOA(外気)側およびEA(排気)側に当社推奨の電動ダンパー(AT-100・150・200DE(株式会社メルコエアテック)を併用してください。
- 別売システム部材(耐外風雨・霧浸入防止フード)と組み合わせてご使用をご確認ください。なお、製品内に水が溜まっている場合は、水滴を拭き取る等の清掃を行い、ご使用ください。
- 寒冷地などでは使用条件範囲内で使用する場でも、外気条件と天井設置湿度条件によって、本体表面およびダクト接続部材が結露、結氷するおそれがあります。右表以外の地域でも上記にあてはまる地域は霧多発地域となります(霧・もや：視界範囲が10km以下となる高湿度状況)
- 別売「寒冷地設置用断熱材」(受注対応品)を準備しています。(寒冷地設置用断熱材の各機種サイズへの裁断および商品への貼り付けはお客様にて実施となります)
- ※結露条件例 外気：0℃以下、設置場所露点温度：10℃以上 (天井設置温度22℃以上で相対湿度50%以上のときなど)
- 電気・電子機器や濡れて困るものの上に製品を設置しないでください。外気や設置場所の湿度条件により製品から霧が落ちて、破損や汚損につながる場合があります。
- 雨水浸入防止対策を施してください。(標準据付例の雨水浸入防止をご参照ください)
- 天井材は共通しにくい材質をご使用ください。
- 給気・排気が混ざらない配管工事を行ってください。
- 一般的に、郊外建物などで給気側外フード近くに窓などがあり、照明光に虫が集まりやすい環境下においては、給気側外フードから本体内部に侵入した虫が、室内に侵入する場合があります。食品工場や病院などの衛生建物でこのような環境下あり、虫侵入を防止する対応として、別売のシステム部材「虫侵入防止ユニット」をご使用ください。(本体への装着は工事店にて実施となります)
- 室外側のOA(外気)ダクトに過大な圧力損失がかかるとRA(還気)側からSA(給気)側への空気が漏れが増加する傾向があります。OA側に過大な圧力損失がかからないように施工してください。
- 火災報知器は感知部がインテリアパネルの給気口から1.5m以上離れたところに取付けてください。
- スプリングラダーはインテリアパネルから30cm以上離れたところに取付けてください。
- 外壁面の給排気口の位置はダクト径の3倍以上離してください。
- 製品運搬時・保管時は製品を縦置きしないでください。
- 次のようなダクト工事はしないでください。(風量低下や異常音発生の原因になります)



安全のために必ず守ること

■誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

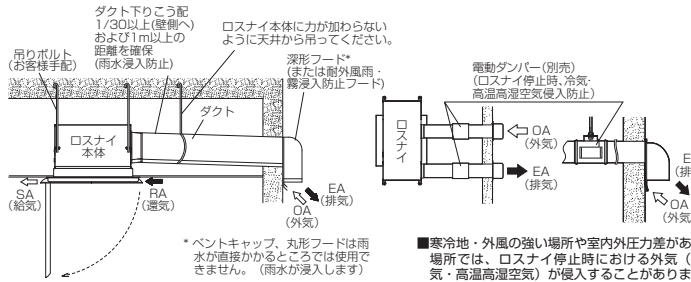
■「図記号」の意味は次のとおりです。

- 警告** 誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
- 注意** 誤った取扱いをしたとき、軽傷または建物・機械などの物的損害に結びつくもの

- 禁止** 浴室据付禁止
- 分解禁止** 指示に従い必ず行う
- アース線を必ず接続せよ**

警告	
<p>禁止</p> <p>高温(40℃以上)や直接炎があたったり、油煙の多い場所には据付けない 火災の原因</p> <p>有害ガス・腐食性成分(*)を含んだガスが発生する場所には据付けない 絶縁劣化による漏電火災や故障の原因 (*)機械および化学工場など酸・アルカリ・有機溶剤・塗料など</p> <p>塩害・温泉害などの発生している場所には据付けない 絶縁劣化による漏電火災や故障の原因</p> <p>電気・電子機器等濡れて困るものの上には据付けない 漏電火災や故障の原因</p>	<p>本体の据付工事は十分強度のあるところを選んで確実に行う 落下によりけがの原因</p> <p>端子台接続部は、指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する。 端子台の1か所に2本以上接続する場合は圧着端子などを使用して確実に接続する 接続に不備があると火災の原因</p> <p>電気工事は、電気工事士の有資格者が規定・基準(*)や据付工事説明書に従い据付ける。 また、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧・ブレーカーを使用する (*)「電気設備に関する技術基準」,「内線規程」 電源回路容量不足や取付不備があると感電、火災の原因</p> <p>漏電保護用に電源側へ漏電ブレーカーを使用する 漏電した場合火災の原因</p> <p>金属製ダクトがメタルラス・ワイヤラス・ステンレス板などの金属と、接触しないように取付ける 接触して取付けると、漏電した場合火災の原因</p> <p>本体より室外側ダクトは室外に向かって下りこう配(1/30以上)になるよう据付ける。 また、断熱処理を確実に 雨水の浸入による漏電・火災や建物・機械などの損傷の原因</p> <p>コントロールカバーは施工後、必ず閉める ほこり・湿気などにより漏電・火災の原因</p> <p>据付け後長期間ご使用にならない場合は、必ず分電盤のブレーカーを切る 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因</p>
<p>分解禁止</p> <p>改造や必要以上の分解をしない 火災・感電・けがの原因</p> <p>浴室据付禁止</p> <p>浴室など温気が多い場所には、本体・コントロールスイッチ・スマートスイッチとも据付けない 感電および故障の原因</p> <p>アース線を必ず接続せよ</p> <p>単相200V製品はアース(D種接地)を確実に取付ける アースを取付けずと故障や漏電したときの感電の原因</p> <p>指示に従い必ず行う</p> <p>定格電圧、制御容量範囲内で使用する 間違った電源で使用すると、火災や感電の原因</p> <p>外気の取り入れは、燃焼ガス等の排気を吸い込まない、積雪で埋もれたりしない位置を避け 新鮮な空気が入らず、酸欠状態になるおそれがあります</p> <p>電気工事の際は、必ず分電盤のブレーカーを切る 感電やけがの原因</p>	<p>指示に従い必ず行う</p> <p>吊りボルト・ナット・ワッシャーは必ず指定のものを使用する 指定以外のものを使用すると、落下の原因</p> <p>指示に従い必ず行う</p> <p>開梱後はすみやかに付属部品のダクト接続フランジを取付ける 取付け前に開口部へ手をかけたりすると、けがの原因</p>

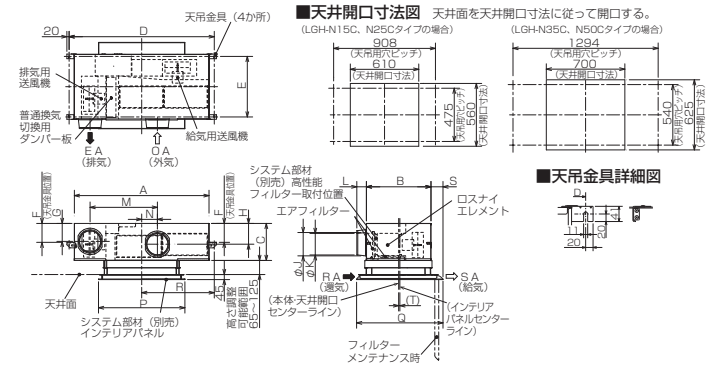
標準据付例



- インテリアパネルを開いてメンテナンスするため、スペースを確保してください。
- 外壁面の給排気口の位置はダクト径の3倍以上離してください。

注意	
<p>指示に従い必ず行う</p> <p>吊りボルト・ナット・ワッシャーは必ず指定のものを使用する 指定以外のものを使用すると、落下の原因</p> <p>指示に従い必ず行う</p> <p>据付けの際は手袋を着用する 着用しないときけがの原因</p>	<p>指示に従い必ず行う</p> <p>開梱後はすみやかに付属部品のダクト接続フランジを取付ける 取付け前に開口部へ手をかけたりすると、けがの原因</p>

外形寸法図と各部のなまえ



形名	外形					天井用穴ピッチ					ダクト接続フランジ					ダクトピッチ					インテリアパネル					質量 (kg) (本体のみ)	インテリアパネル形名
	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z			
LGH-N15Cタイプ	814	510	268	908	475	118	φ100	160	156	110	97.5	60	300	11	670	685	454	103	15	18	PZ-N125SPz						
LGH-N25Cタイプ	814	510	268	908	475	118	φ150	160	156	160	142	70	300	11	670	685	454	103	15	18	PZ-N125SPz						
LGH-N35Cタイプ	1202	577	330	1294	540	168	φ150	160	185	160	142	70	450	-10	770	770	647	107	10	28	PZ-N350SPz						
LGH-N50Cタイプ	1202	577	330	1294	540	168	φ200	160	185	208	192	86	600	140	770	770	647	107	10	29	PZ-N350SPz						

据付方法

据付工事の流れ



- システム部材 (別売) インテリアパネル (天井力セット専用) の据付工事説明書もあわせてご覧ください。
- スマートスイッチを使用する場合、スマートスイッチの据付工事説明書もあわせてご覧ください。

1 ダクト接続フランジの取付け

ダクト接続フランジを付属の取付ねじで本体に取付ける。
 ※35、50タイプの場合は、片側のダクト接続フランジがあらかじめ本体に取付けてありますので、残りのフランジのみ取付けてください。(取付ねじは4本入りです)

【お願い】
 ●ダクト接続フランジを取付ける前に本体内部に異物(紙・ビニールなど)が入っていないことを確認してください。

2 天井吊金具の固定

1 天井吊金具のねじをゆるめる。
 2 ゆるめたねじを中心に天井吊金具を90度回転させ、水平にする。
 3 ゆるめたねじおよび付属の取付ねじで製品にしっかり締め付け固定する。
 ※天井吊金具は工場出荷時本体にたんだ状態で固定されています。

3 ウッシャー・ナットの取付け

あらかじめ埋め込んである市販の吊りボルト(M10)に左図のように市販のウッシャー(外径21mm以上)・ナットを取付ける。

【防振ゴム(お客様手配)を使用する場合】
 防振ゴム(お客様手配)を使用する場合は、強度低下の原因になる可能性がありますので、左記のような施工を推奨します。

4 本体の固定

1 天井吊金具を吊りボルトに引掛け本体が水平になるよう調節する。(斜め天井への据付けはしないでください)
 2 ゆるみ防止のためダブルナットで確実に締め付ける。
 【お願い】
 ●天井面より本体下面までの距離が65~125mmの範囲になるように、本体を固定してください。
 ●吊りボルトは、振れ止め耐震支持部材にて必ず補強を行ってください。

5 ダクトの接続

1 ダクトをダクト接続フランジにしっかり差し込み、風漏れのないよう市販のアルミテープを巻き付ける。
 2 ダクトはロスナイ本体に力がかからないよう天井から吊る。
 (ロスナイ本体に力がかかることで、虫が本体内部に侵入する場合があります)
 3 室外側ダクト2本(外気・排気ダクト)には、結露防止のため必ず断熱材を巻き付ける。
 【お願い】
 ●ダクト接続をする前にダクトの中に切り粉、異物(紙・ビニールなど)が入っていないことを確認してください。

電気工事

警告

- 定格電圧、制御容量範囲内で使用する 指定以外で使用すると、火災や感電の原因
- 電気工事は必ず電気工事士の有資格者が規定・基準(*)や据付工事説明書に従って行う。また、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧・ブレーカーを使用する(*) [電気設備に関する技術基準]、「内線規程」電源回路容量不足や取付不備があると感電、火災の原因
- 端子台接続部は、指定の電線を使用して、抜けないように確実に接続する。電源線、連絡電線など端子台の1か所に2本以上接続する場合は圧着端子などを使用して確実に接続する。端子台の1か所の圧着端子同時接続は2本以下とする
 接続に不備があると火災の原因

※外径が8mm以下のものを使用してください。
 ※1 日本技術規格(例): 5.5-5.4
 ※2 日本規格(例): 5.5-4S
 ※3 絶縁被覆がない場合は必ず絶縁処理をする

1

※図は35・50タイプを示す。

ねじ4本をはずして、コントロールカバーをはずす

コントロールスイッチを使用する場合

コントロールスイッチ接続電線

端子台

1 電源線およびコントロールスイッチ接続電線をコードブッシュに通してコードクリップで固定する
 ●200Vタイプのコードブッシュには保護カバーが取付けられています。保護カバーをはずさずにコントロールスイッチ接続電線をコードブッシュに通ってください。
 【お願い】
 ●電源線は長さ之余裕を持たせてください。メンテナンスができなくなります。

◆100Vタイプ

端子台

◆200Vタイプ

端子台

アースねじ

アース線

保護カバー

コードクリップ

2 電源線およびコントロールスイッチ接続電線(単線φ1.6例VVVF)は結線図を参照して端子台に接続する
 【お願い】
 ●電線の皮むき寸法は10mmとする。皮むき寸法が長すぎると芯線同士が接触して短絡するおそれがあります。
 ●ロスナイとコントロールスイッチ間および複数台運転のロスナイ間の配線長合計は、100m以内としてください。(誤動作をおそれがあります)
 ●端子台のねじは1.2~1.9N・mで締めてください。1.9N・mより大きなトルクで締めると、基板が破損するおそれがあります。

3 単相200Vの場合、アース工事をする

締め付けてあるアースねじをはずして、アース線を取付ける。

スマートスイッチを使用する場合

スマートスイッチ接続電線

スマートスイッチ専用抵抗電線

◆15・25タイプ

スマートスイッチ専用抵抗電線

スマートスイッチ専用抵抗

取付ねじ

◆35・50タイプ

スマートスイッチ専用抵抗電線

スマートスイッチ専用抵抗

取付ねじ

3 スマートスイッチ接続電線をコードブッシュに通してコードクリップで固定する
 【お願い】
 ●電源線は長さ之余裕を持たせてください。メンテナンスができなくなります。

◆15・25タイプ

スマートスイッチ専用抵抗電線

スマートスイッチ専用抵抗

取付ねじ

◆35・50タイプ

スマートスイッチ専用抵抗電線

スマートスイッチ専用抵抗

取付ねじ

4 スマートスイッチ専用抵抗を必ず取付けてください。風量切替ができなくなるおそれがあります。
 ●電線は圧着端子などを使用して確実に接続してください。また、絶縁被覆がない場合は必ず絶縁処理をしてください。
 ●ロスナイとスマートスイッチ間および複数台運転のロスナイ間の配線長合計は、100m以内としてください。(誤動作をおそれがあります)
 ●端子台のねじは1.2~1.9N・mで締めてください。1.9N・mより大きなトルクで締めると、基板が破損するおそれがあります。

3 マルチ換気モード設定を行う

使用用途に応じてマルチ換気モード設定コネクタを差し換える。詳しくは「機能設定」を参照してください。
 ●工場出荷時は「強」になっています。
 ●給・排気それぞれ差し換え可能です。
 ※BHN15CSs(D)、N25CSs(D)には特強の機能がありません。コネクタを強・弱以外には差し換えないでください。

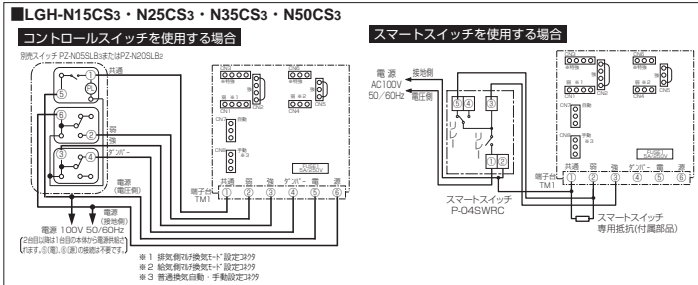
4 自動/手動換気機能切替設定を行う (コントロールスイッチを使用する場合)

使用用途に応じて自動/手動換気設定コネクタを差し換える。詳しくは「機能設定」を参照してください。
 ●工場出荷時は「自動」になっています。
 ●「手動」に設定した場合は、コントロールスイッチの機能切替スイッチ表示銘板の交換をしてください。詳しくはコントロールスイッチの「取扱説明書」をご覧ください。
 ●「手動」に設定した場合、冬期に室内を暖房しているとき、「普通換気」で運転しないでください。本体に結露を生じ、天井等を汚すおそれがあります。
 ●スマートスイッチを使用する場合は、換気モードを切り換えられません。ロスナイ換気固定となります。

5

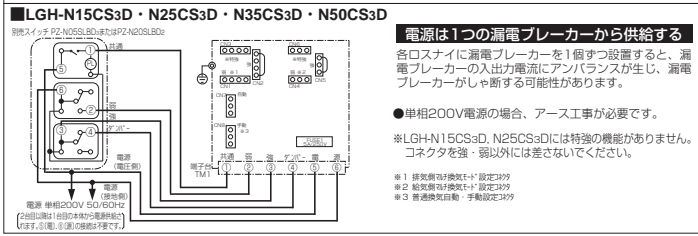
結線が終わったら元通りコントロールカバーを取付ける

結線図 ※太線および破線部分を結線します。漏電保護用に電源側に漏電ブレーカーを付けてください



電源は1つの漏電ブレーカーから供給する
各ロスナイに漏電ブレーカーを1個ずつ設置すると、漏電ブレーカーの入出力電流にアンバランスが生じ、漏電ブレーカーがしゃ断する可能性があります。

※LGH-N15CS3, N25CS3には特強の機能がありません。コネクタを強・弱以外には差さないでください。



電源は1つの漏電ブレーカーから供給する
各ロスナイに漏電ブレーカーを1個ずつ設置すると、漏電ブレーカーの入出力電流にアンバランスが生じ、漏電ブレーカーがしゃ断する可能性があります。

●単相200V電源の場合、アース工が必要です。
※LGH-N15CS3D, N25CS3Dには特強の機能がありません。コネクタを強・弱以外には差さないでください。

コントロールスイッチ複数台運転可能台数

100V	形名	台数
PZ-N05SLB3またはPZ-N20SLB2 1台で右表の同一機種複数台運転ができます。	LGH-N15CS3	10
	LGH-N25CS3	6
	LGH-N35CS3	4
	LGH-N50CS3	3

単相200V	形名	台数
PZ-N05SLB3DまたはPZ-N20SLB2D 1台で右表の同一機種複数台運転ができます。	LGH-N15CS3D	10
	LGH-N25CS3D	6
	LGH-N35CS3D	4
	LGH-N50CS3D	3

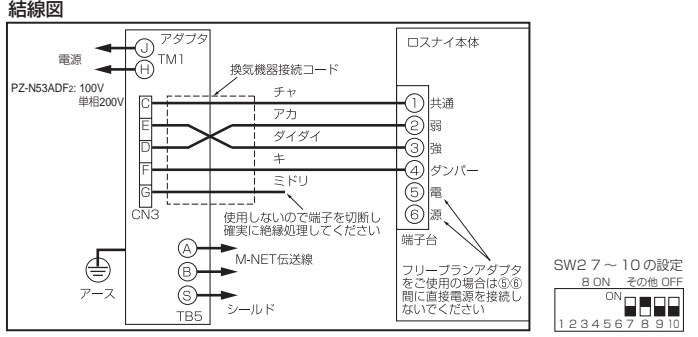
●異機種組み合わせ複数台運転については、カタログ・納入仕様書を参照ください。

スマートスイッチ複数台運転可能台数

形名	台数
LGH-N15CS3	3
LGH-N25CS3	1
LGH-N35CS3	1
LGH-N50CS3	1

システム部材 (別売) フリーブランチアダプタ (PZ-N53ADF2) 使用の場合

製品に直接取付けることはできません。吊りボルト等に取付けてください。詳しくはフリーブランチアダプタの説明書をご覧ください。スマートスイッチとの併用はできません。



制御基板上の設定コネクタ (CN1~3, CN4~6, CN7・8の3か所) を差し換えて機能設定を行う。

警告
設定コネクタを差し換えるときは、必ず分電盤のブレーカーを切る
感電やケガの原因

1. マルチ換気モード設定

使用環境や設置場所に応じて給気と排気のバランスを調整することができます。
●本体設定コネクタにより、下表換気モードの選択が可能です。

コントロールスイッチ	設定コネクタ	給気側	排気側	マルチ換気モード
強	強 (特強)	強 (特強)	弱	※省エネ換気
	強 (特強)	弱	強 (特強)	※省エネ換気
	弱	強 (特強)	弱	省エネ換気
	弱	弱	強 (特強)	省エネ換気

※本体設定コネクタを両方もとも弱に設定すると、コントロールスイッチまたはスマートスイッチの強・弱によらず省エネ換気固定となります。
コントロールスイッチまたはスマートスイッチの風量切換スイッチで「強」に切り換えた場合、本設定に従い給気および排気用送風機が運転します。
※LGH-N15CS3(D), N25CS3(D)には「特強」の機能がありません。「強」または「弱」に設定してください。

給気用送風機		排気用送風機			
モード	設定コネクタ	動作	動作		
特強	CN6 (白)	「強」のとき、特強風量で運転する。	特強	CN3 (赤)	「強」のとき、特強風量で運転する。
強	CN5 (白)	「強」のとき、強風量で運転する。 (工場出荷時)	強	CN2 (赤)	「強」のとき、強風量で運転する。 (工場出荷時)
弱	CN4 (白)	風量切換スイッチによらず弱風量で運転する。	弱	CN1 (赤)	風量切換スイッチによらず弱風量で運転する。

2. 自動/手動換気機能切換設定 (コントロールスイッチを併用する場合)

ロスナイ換気、普通換気 (バイパス換気) の切換方法を選択することができます。
コントロールスイッチの機能切換スイッチを操作したとき、本設定に従い動作します。
●「自動換気」については、別冊の「取扱説明書」を参照してください。
●「工場出荷時」から「手動換気」に変更した場合、コントロールスイッチの「据付工事説明書」を参照して、コントロールスイッチの表示もあわせて変更してください。
●スマートスイッチを使用する場合は、換気モードを切り換えられません。ロスナイ換気固定となります。

モード	設定コネクタ	動作
自動切換	CN7	「ロスナイ換気」と「自動換気」を切り換える。(工場出荷時)
手動切換	CN8 (青)	「ロスナイ換気」と「普通換気 (バイパス換気)」を切り換える。

据付工事後の確認

本体の据付工事が終わりましたら、下表にしたがってもう一度点検してください。
不具合がありましたら必ず直してください。

試運転前下記事項をご確認いただき、必ずチェックボックス☑をチェック願います。

<p>(1) 製品据付チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 室外側ダクト2本には断熱材を巻き付けてありますか? 【本体の据付け 5 参照】 <input type="checkbox"/> 室外側ダクトは壁側に向かって1/30以上の下り勾配を確保していますか? 【標準据付例 参照】 <input type="checkbox"/> 室外側ダクトは1m以上の距離を確保していますか? 【標準据付例 参照】 <input type="checkbox"/> 室外側ダクトはロスナイ本体に力が加わらないよう天井から吊られていますか? 【標準据付例 参照】 <p>(2) 電気工事チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 電源と本体形名、コントロールスイッチまたはスマートスイッチの組合わせは正しいですか? 【試運転 組合わせ表】 <input type="checkbox"/> 接続電線は結線図通り結線されていますか? 【結線図、試運転 参照】 <input type="checkbox"/> 接続電線の端子台への接続は確実ですか? 【電気工事 2 参照】 <input type="checkbox"/> 接続電線の固定は確実ですか? 【電気工事 2 参照】 <input type="checkbox"/> 基板上のコネクタのものはありますか? 【電気工事 2&3 2 参照】 <input type="checkbox"/> (200V機種の場合) アース線の接続は確実ですか? 【電気工事 2 参照】 <p>(3) 機能設定チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> マルチ換気モード設定コネクタの接続は正しいですか? 【電気工事 3 参照】 <input type="checkbox"/> 自動/手動換気設定コネクタの接続は正しいですか? 【電気工事 4 参照】 	<p>SW2 7 ~ 10 の設定</p> <p>8 ON その他 OFF</p> <p>ON <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10</p>
--	---

※初期不具合を防止するため、必ず据付工事後の確認を実施いただき、お客様にお渡し願います。

試運転

本体の据付工事の終了後、天井板を張る前に結線が間違っていないか確認する。
必ず試運転をし、動作確認を実施する。

組み合わせ表

電源	本体形名	コントロールスイッチまたはスマートスイッチ形名
100V	LGH-N15~N50CS3	PZ-N05SLB3またはPZ-N20SLB2またはP-04SWRC
単相 200V	LGH-N15~N50CS3D	PZ-N05SLB3DまたはPZ-N20SLB2D

■誤結線によりロスナイ本体端子台⑤⑥が短絡すると、回路が破損します。

1. 必ず元電源を「切」の状態での確認を行う。

項目	手順
① 自動/手動換気設定コネクタの差換え（ロスナイ本体）	自動/手動換気設定コネクタを「手動」換気に設定する。（電気工事④（2ページ）を参照）（手動換気設定に変更済みの場合、本操作は不要です）
② コントロールスイッチまたはスマートスイッチ	電源スイッチを「入」にし、風量切換スイッチを「弱」。コントロールスイッチの場合は機能切換スイッチを「自動換気」または「普通換気」にする。
③ 抵抗の測定（ロスナイ本体）	<ul style="list-style-type: none"> ロスナイの端子台⑤⑥にテスターを当てて抵抗を測定する。1Ω以下が出た場合は、短絡しています。回路が破損しますので結線図通りに結線し直してください。 ロスナイの端子台④③にテスターを当てて抵抗を測定する。 ロスナイの端子台②③にテスターを当てて抵抗を測定する。1Ω以上が出た場合は、正常な換気ができせんので結線図通りに結線し直してください。
④ コントロールスイッチまたはスマートスイッチ	電源スイッチを「切」にする。

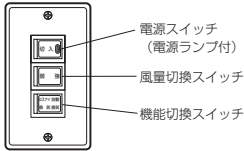
2. 元電源を入れ次の確認を行う。

注意

試運転中に羽根の中に指や物を入れない
けがの原因

コントロールスイッチを使用する場合

システム部材（別売）
コントロールスイッチ



- ロスナイの端子台⑤⑥にテスターを当て、電圧を測定する。異電圧が印加されている場合は正しい電圧で結線し直す。
- 電源スイッチを「入」にし、風量切換スイッチを「強・弱」に切り換えてロスナイの給気と排気の風量が切り換わることを確認する。
※マルチ換気モード設定を「弱」にしている場合、風量は切り換わりません。
- 機能切換スイッチを「ロスナイ換気」・「自動換気」または「普通換気」に切り換えたときに、ロスナイ本体内のダンパーが切り換わることを確認する。
※電源スイッチが「入」の状態では異電圧印加された場合、ダンパーモータが故障し、ダンパーが正常に切り換わらなくなるおそれがあります。

スマートスイッチを使用する場合

- スマートスイッチの電源を入れ、ロスナイが運転することを確認する。
- 風量切換スイッチを押し、ロスナイの風量が切り換わることを確認する。

お知らせ ●ブレーカーを入れて約5秒間はスイッチ操作はできません。

3. 必ず元電源を切り、次の確認を行う。

項目	手順
① 回路基板の確認	回路基板上のヒューズ（FUSE1）が切れていないことを確認する。（100V機種に単相200Vを印加するとヒューズが切れます）
② 自動/手動換気設定コネクタの差換え（ロスナイ本体）	自動/手動換気設定コネクタを「自動」換気に設定する。（電気工事④（2ページ）を参照）（換気切換モードを「手動換気」でご使用の場合は変更する必要はありません）

試運転で異常があった場合

項目	処置
回路基板ヒューズが切れている	異電圧印加により回路基板およびダンパーモーターが故障しています。電源電圧を再確認のうえ、専門の工事店へ上記部品の交換を依頼してください。
コントロールスイッチまたはスマートスイッチの電源スイッチを入れても運転しない	<ul style="list-style-type: none"> 結線の確認 電源の確認 マルチ換気モード設定コネクタがはずれていないか確認
コントロールスイッチまたはスマートスイッチの風量切換スイッチを切り換えても風量が切り換わらない	<ul style="list-style-type: none"> 結線の確認 マルチ換気モード設定コネクタの確認
コントロールスイッチの機能切換スイッチを切り換えてもロスナイ本体内のダンパーが切り換わらない（自動換気に設定している場合、外気温度により普通換気に切り換わらない場合があります）	<ul style="list-style-type: none"> 結線の確認 自動/手動換気設定コネクタの確認 サーモスター線の確認（コネクタははずれ、断線等がないか） スマートスイッチを使用する場合は、換気モードの切り換えはできません。

■モータに過負荷保護装置として、温度ヒューズが内蔵されています。拘束、過負荷、異電圧印加、あるいは周囲温度が40℃を超える場合にはヒューズが自動的に溶断し、通電不能となることがあります。モータが動作しない場合は、電源を切り、専門の工事店へモータ交換を依頼してください。

インテリアパネルの取付け

システム部材（別売）インテリアパネルの据付工事説明書に従って取付ける。

インテリアパネルの取付方法を動画で確認することができます

インテリアパネルの取付方法

https://d.mitsubishielectric.co.jp/di/dp/wink/ssr/wink_doc/m_contents/doc/DOUGA/SEKOU_INTERIOR-PANEL_CEILING-CASSETTE_230123.mp4



お客様への説明

- 別冊の「取扱説明書」に従って正しい使いかたを説明してください。特に「安全のために必ず守ること」の項は安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようご説明ください。なお、物件などで使用者が不在の場合は、発注者（オーナーなど）または、管理会社へご説明ください。
- この「据付工事説明書」は、据付工事が終わりましたら、別冊の「取扱説明書」とともにお客様へ必ずお渡しください。